

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 0393000120 | | |
| 法人名 | 有限会社 介護施設あお空 | | |
| 事業所名 | あお空グループホーム山田 | | |
| 所在地 | 〒028-1321 岩手県下閉伊郡山田町山田第19地割51-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年12月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年4月4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた当ホームで利用者の皆様は毎日穏やかに生活されております。現在は新型コロナウイルス禍にて外出は控えておりますが、暖かい日はホームの外に出て日光浴をしたり散歩を楽しんだりしています。食事に関しては季節の旬の食材を出来る限り使用し食事により季節を感じて頂けるよう努めております。週2回は手作りのおやつを提供したり誕生会や季節の行事には手作りケーキを提供させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山田インターを降り7分位走った山間部の集落の中に有り、周辺は自然環境に恵まれた里山である。令和4年4月に、覚えやすさを主眼にして理念の見直しを行った。職員に案を募り、集まった案を皆で話し合い、新しい理念を「心で見守り笑顔で支える」として入居者の支援に取り組んでいる。「優しく接すること」とを大切にケアに努め、入浴時には事前に利用者から好ましい湯の温度、入浴時間、同性介助の有無等について聞きながら、気持ちよく入浴できるようにしている。また、おやつ作りも手作りで行い1週間に2回以上提供し、季節のものを使って旬のものを提供するようにしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 令和5年1月26日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 昨年度の外部評価でアドバイスを受け10年の節目となることもあり「心で見守り笑顔で支える」という新たな理念を作成した。職員からの公募で数点の中から検討しましたが、以前の理念より覚えやすいとの事で満場一致で決定しています。 | 令和4年4月、覚えやすさに主眼を置いて理念を見直した。職員に案を募り、集まった案を皆で話し合い、その結果、新しい理念を「心で見守り笑顔で支える」とした。新しい理念は、職員の目につきやすい玄関と事務所内、ホールに掲示し意識付けを図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新型コロナウイルスの影響もあるが、ホール内から地域の方が目に入った時は手を振ったりと交流している。今夏の地域のお祭りの際はホームの前に立ち寄って頂き地元の関口剣舞を披露していただきました。 | ホールの窓越しに道を歩いている地域の方に手を振り挨拶を交わしている。コロナ禍前は、地域住民の懇親会に参加したり、中学生の職場体験などを受け入れていたが中止になっている。コロナ禍が収束した折には再開したい、としている。今でも時折地域の方や家族の方から野菜をいただいている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 新型コロナウイルスによりホームへの出入り制限のお願いをしている事もあり、思うようにいけないのが現状である。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 昨年の1月に開催して以来推進会議は開催できていませんが、開催予定月には資料と広報を送付させて頂き目を通して頂いている。身体拘束廃止検討会議の資料がある際にはそちらも同封している。 | コロナ等感染症への対応として、集合開催はできていない。しかし、開催予定月には資料と広報を送付しており、身体拘束廃止検討会議の資料がある際には、その資料も同封している。委員に近隣住民が委員となっていたが、辞退され空席の状態であり、家族代表の参加もない。 | 利用者の生活状況やサービスの実際を外部の客観的な意見をいただくことは大切である。事業所の様々な課題について相談に乗っていただいたり、地域の中で事業所が役割を果たすことを目指し、双方向的な会議の在り方を工夫することが期待される。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 利用者様の事で困ったことがあった際相談させて頂いている。入所申し込みに関する相談にも乗って頂いている。 | 行政とは、相互に情報の共有を行うよう努めている。入居者の退所後の金銭に関する相談や災害時の安否確認、要介護認定申請代行時の情報交換など、事業所の考え方や実状を知っていただいている。電話での連絡が主であるが、関係資料は、メールやファックスで送受信し対応している。 | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3か月に1回の割合で身体拘束廃止検討会議と研修会を開催している。防犯上の理由で19:00～翌朝5:30までは玄関の施錠をしている。 | 高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員への周知、認識の向上を図っている。転倒防止のための人感センサーを3名の方が使用しているが、夜間だけの対応としている。玄関の施錠は、防犯目的で19:00から翌朝5:30までとしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待の職場内研修を行い、虐待の防止に努めている。日頃から職員の言動や対応が不適切にならないよう、職員同士で声を掛け合い虐待防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は制度を利用されている利用者様はいらっしゃいませんが、権利擁護と成年後見制度の研修を行い、学ぶ機会を設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約や解約、改定の際には重要事項説明書に基づき口頭での説明を行い、分からない部分や疑問点はその都度伺うようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様からの要望等あった場合には職員間で情報共有し、要望に極力添えるよう努めている。ご家族様には電話や面会来訪時に要望、気になっていること等伺うようにしている。 | 入居者からの意見・要望は、食べ物に関することが多く、職員間で情報共有し、要望に極力添えるよう努めている。家族からは、通院時や来所時に意見や要望を聞いている。預り金から、季節に合わせた衣類や好物の購入を頼まれたりしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 朝の申し送り時に気になっている事や要望など意見交換している。日頃から管理者へ各職員が意見や提案を話しやすい環境づくりに努めています。 | 必要な支援を柔軟に提供するために、管理者は職員から情報を得て、一緒に話し合いながら支援の仕方など調整している。風呂場の手摺りなどの修理に関しては、業者に依頼し修理対応し、エアコンの購入設置などの物品購入は、本部に協議して対応している。 | |

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎月公休や有給休暇取得の希望を取り、出来る限りその要望に応えるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修への参加はコロナウイルスのため思うようにはできていないのが現状である。職員会議時に職場内での研修を行い、職員のスキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルスの為直接行き来する事はないが、町内の他の1件のグループホームとは運営推進会議の資料を渡し合い、目を通して頂いている。町内の地域密着型サービス会議にも出席し新型コロナウイルスの玉突き支援、物資供給支援等の協定を締結している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には事前にご本人、ご家族様と面会し、入居に対しての不安な点やご要望を聞き入れるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様の思いや意向を理解し、ご家族様の立場になって希望や要望に耳を傾け、話しやすい環境づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族様から若い頃や入居される前の状況を伺い、ご本人やご家族様の望まれるケアの参考にしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事の下準備や軽作業等を利用者様と同じテーブルで行ったり、昼食を利用者様と同じテーブルで摂取し、同じ目線での生活空間をセッティングするようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人をリフレッシュさせる目的でお盆や年末年始、その他ご本人が望まれたタイミングでご自宅に外泊に連れ帰られるご家族様もおられる。ご本人の状況により必要であればその都度電話や面会にて対応していただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍でなかなか思うように外出できない状況が続いていますが、遠方の義弟さんに衣類を送って頂いたお礼の手紙を写真、広報を添えて送ったり、返事を頂くこともある。 | 入居前は、家族や担当していたケアマネから馴染みの人や場所についての情報を得ている。入居後には暮らしの中で、友人や親族の関係、行き付けの床屋や美容院など、地域との関わりも含めて把握に努めている。コロナ禍前は、自宅にも出向いていたが、今は取り止めになっており、コロナ禍収束後には再開したいとしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の性格や介護度を考慮し、お互いが快適に楽しく暮らしていけるよう支援している。ホール内の座席や食席もトラブルや要望があれば変更したり、テーブルの高さが合わなければ変更したりと柔軟に対応している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も入院先の病院に面会に訪れたり、ご家族様にその後の様子を伺ったりしています。 | | |

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

| | | | | | |
|----|-----|--|--|---|--|
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の行動や表情等に留意し把握した情報を職員間で共有し、本人のやりたいこと、望む事を見つけて支援している。 | 毎朝のラジオ体操後に、食べたいもの、気になっていることなどを話せる場を設けている。外出したいとの希望を受けてドライブに出かけている。話すことが難しい利用者については表情やしぐさ等で気持ちを推察している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人からの証言や聞き取り等にて生活歴の把握に努めている。本人の話す過去の事に耳を傾け、支援に反映するようになっている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 起床や就寝時間など、出来る限り本人のタイミングを尊重している。また、本人が行動を迷っている時は声をかけ促している。 | | |

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3か月に一度利用者様個別のカンファレンスを実施し職員間で情報共有している。また、状態に変化があった場合はその都度検討し対応している。区分変更があった場合にも本人の状態を見極め適切な介護計画を作成している。 | 計画内容の項目毎に、担当職員が毎日チェック表に記録しモニタリングを行っている。計画作成担当者は、3か月毎にカンファレンスを開催して個別計画の見直しを行っている。介護度の更新や要介護度の変化、入院など状況が変化した場合には、現状に即した計画の見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の観察記録、連絡ノート、日誌などを用い、スタッフ間で情報共有している。朝の申し送り時には体調変化や周辺症状等の情報を伝え、日々のケアに反映している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況に応じてその都度話し合い、柔軟に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナウイルスの影響でコロナ禍以前のよう交流は難しい状態ですが、2か月に1度のペースで理容店に來所して頂いている。季節行事に必要な物品の紹介をしていただく事もある。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的には入所以前からのかかりつけ医を受診しているが、体調が悪化した場合には家族に状況を伝え、本人又は家族の望まれる病院を受診して頂ける体制を取っている。また、その症状に応じて適切な専門医のアドバイスもしている。 | 入居前からのかかりつけ医を継続することを基本としているが、変更がある場合には、家族の同意を得てかかりつけ医からの紹介状をいただき対応している。通常の受診は職員が対応しており、半年に1回程度は家族が対応している。受診結果は家族と報告し合っており、情報の共有ができています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1度社内に配置された看護師が来訪している。体調や症状が悪化した場合には24時間体制で連絡が取れる体制を整え、緊急時にも適切なアドバイスを受けている。 | | |

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時には医師による家族への説明に立ち会い、看護師にもホームでの様子など情報提供し、本人が安心して入院生活を送れるよう支援している。退院時には病院からのサマリーにて情報を頂き、医師からは再度体調不良になった場合のアドバイスを受けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 町内に訪問診療を行っている病院が無い場合、現状でホームでの看取り対応は難しい状況である。入所時に看取りは難しい現状を家族に伝えご理解を得ている。また、緊急時の対応方法も家族にお伝えしている。 | 町内には看取り対応の協力医が不在であるため、終末期での看取りは行わず、他の施設への住み替えを基本とし、入居前に本人や家族に説明し了解を得ている。要介護3を超えた場合には特養に入所申し込みを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職場内研修において緊急時対応のスキルアップを図っている。また、実際に有った緊急対応についても事後に話し合いを持ち、対応の改善に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の火災想定避難訓練と年1回の水害対策避難訓練を行っている。水害時はホームの2階を避難場所としており、高齢者等避難情報が発令された場合には対応している。 | 事業所の立地場所は水害危険地域ではないが、川の側の土地であるため1階の床を高くして建設している。近所の方に火災発生時の手助けをお願いしているほか、近くの障がい者グループホームとは、災害時の協定を結んでいる。食料2日分位、石油ストーブ、カセットガスコンロ、使い捨て食器を備蓄している。 | |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|------|--|---|---|--|
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は利用者様に対し敬意の念を忘れず接する事を心掛けている。入浴や排泄時異性によるケアに抵抗がある方には本人の意思を尊重し対応している。居室への訪室時にもノック、声掛けし本人の許可を得た上で慎重に入室するよう心がけている。 | 職員が入居者に向けて発している言葉の内容や語調などが、入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることがないように留意している。方言なども使いながら、言葉遣いを優しくしている。配慮に欠けた言葉遣いがあった場合には、管理者が注意し、職員も気になった場合にはお互いに注意し合っている。 | |
|----|------|--|---|---|--|

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様同士で会話されている要望等聞き逃さず、極力対応できるよう努めている。レク時などに利用者様皆さんに職員側から話題を振って要望を聞き出すこともある。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 新型コロナウイルスにより外出等への要望に沿うことはなかなか出来ていないのが現状であるが、起床、昼寝、就寝時間や入浴、外泊の意向など利用者様自身のペースを尊重し、なるべく希望に沿う支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 新型コロナウイルスのため外出して買い物がなかなか難しい状況であるが、起床時に本人が着たい服を選んだり入浴時の着替えを選んでいただくようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食材の下準備や下膳、食前後のテーブル拭き等職員と一緒に、お膳の配色や盛り付けにも気を配っている。週に1~2回は手作りのおやつを提供させて頂いている。誕生日には手作りケーキを提供させて頂いているが、その他行事時にも手作りのケーキを提供している。 | 朝夕は冷食を温めて提供しているが、昼は野菜の皮むき、玉ねぎの刻みを利用者が行ったり、家族からいただいた野菜を食材としておいしく調理している。小正月の水木団子も、利用者が丸めたり木に飾るなどして楽しむ姿がみられている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日当たりの食事摂取量、水分補給量を記録し栄養状態を把握している。受診時の血液検査の結果で不足している栄養素があれば努めて摂取して頂いている。必要な方には食形態の変更をして対応している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時、毎食後に義歯洗浄、うがいを利用者様全員に声掛けにて促し行っている。夕食後には義歯の消毒も行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表に記録し、日々の回数を把握している。排泄から気の逸れている利用者様にはさりげなく声掛けしている。 | 排泄チェック表を活用し、習慣やパターンに応じた排泄支援を行っている。入居者の中には、誘導の仕方や関わるタイミングが良かったのか、布パンツを使用出来るようになった方もいる。排泄から気がそれている方には、さりげなく声掛けしたり、ソワソワする動作を見てトイレに誘導するなど、羞恥心や不安へも配慮している。 | |

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の昼食にヨーグルトを摂取して頂いている。食事は野菜を多く取り入れバランスの良い食事を心掛けている。排便のパターンを医師に相談しその方に合った下剤を処方していただくようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週に最低2回は入浴して頂いている。湯花を複数用意し快適に入浴して頂けるよう配慮している。時季には菖蒲湯、ゆず湯も提供している。声掛けし気が進まない場合は日時変更するなど柔軟に対応している。 | 入浴は、月曜日から土曜日の午後1時から3時の間としている。声掛けしても気が進まない方には、日時を変更するなど柔軟に対応している。くつろいだ気分で入浴ができるように、湯加減を聞いたり、静かに入浴したい方には、職員は脱衣所で待機し、浴槽からあがる音を聞いてから介助している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床、就寝時間は基本的に本人のタイミングで行っている。時間が分からない利用者様には声掛けし促している。夜間に眠れない方には温かい飲み物を提供したり工夫している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の内容、用法、用量、副作用等個別にファイルに綴りいつでも確認できるようにしている。誤薬防止の為服薬時は薬袋に記載の朝、昼、夕と利用者様の氏名を発声し確認するようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 軽作業のお願いの声掛け、終了後の感謝の声掛けを心掛けている。声の掛け方により達成感や喜びを感じられるよう配慮している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスにより思うように外出できていない状況が続いていますが、お正月には近所の神社に参拝に出かけています。 | 天気の良い時には、建物の側の石垣に腰を掛けたり、散歩をし、お正月には近くの神社に参拝に出かけている。入居者から、外出したいとか美味しいものを食べたいなどの要望が多く、人と接触しない範囲で住んでいた地区に出向いたり、月に1回位のドライブを行っている。 | |

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現状では利用者様本人がお金を所持する事は不可ですが、入居時にご家族様にその旨をお伝えし、預り金という形で職員が管理している。利用者様からおやつや日用品の購入希望があれば預り金から購入する体制を取っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様の希望時にいつでも電話をかけて頂ける体制を取っている。ご家族から電話がかかってきた場合も同様に取り次いでいる。手紙や年賀状も本人が希望した場合には対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日中はほとんどの利用者様はホールで過ごされているが、寒い等の要望があればエアコンで温度調整を行っている。入浴時の脱衣場も寒い時期には電気ストーブで適温を保っている。冬季間中は加湿器にて湿度調整をしている。 | 壁と床はベージュを基調として落ち着いた雰囲気があり、清潔感も感じられる。ホールには、季節が感じられるようみずき団子や凧が飾られている。2階からの移動はエレベーターを使い、4名位の利用者は自分で操作できる。年に数回いただく生花を職員と一緒に花瓶に挿しホールに飾っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 基本的に座席は決まっているが、利用者様から要望があった場合や利用者様間でトラブルがあった場合等には変更を検討し対応している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室入り口に視認性の良い表札を貼り自身の部屋だと認識できるようにしている。コルクボードを各居室内に配置し思い出の写真や絵など貼っている。故人の遺影を居室に配置されている方もおられる。 | 2階に7部屋、1階に2部屋配置されており、ベッド、エアコン、クローゼット、椅子等が備え付けられている。コルクボードに行事の際の写真や書初め作品などが飾られている。居室でジグソーパズルを楽しむ利用者もいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ、浴室等には誘導札を配置し目視にて場所を認識できるようにしている。室内においてはバリアフリーで安心して歩行できる。 | | |